

書誌調査というお仕事

和漢古典籍の書誌調査方法を学ぶための資料です。

Contents

1. はじめに
書物とは、さまざまな知識や人間の思いを、時空を超えて伝えてくれるタイムカプセルです。それなしに文明の高度な発達はあり得ず、人類史上、最も重要な発明品、道具と言えるでしょう。
2. 書物を知る
まず、タイトルをもとに和漢古書目録を使ってその本について調べてみましょう。様々な和漢古書の目録から手元にある本について知ることができます。
3. 著者を知る
手元にある本の著者がどんな人物であるか、それを知らずしてその本がどんな書物か知ることにはできません。その本がどんな人物によって書かれたものか調べてみましょう。人名辞典や前項で紹介した目録を使って調べることによって、本や著者を知り、書物と書物をつなげていくことができます。
4. 書物を比較する・つなげる
検索対象資料の分野、内容などを検索キーにして個別の図書館・文庫目録も検索してみましょう。また、全文画像も掲載されたデータベースを利用すれば、テキストや筆蹟、画風の比較もできます。
5. 書誌調査に役立つツール
書誌調査では目録や人名辞典以外にも以下のようなツールを利用できます。知らない言葉や地名、元号などを見つけたら調査に役立ててください。

担当教員：塩村 耕

コンテンツは随時改善・増補予定です

1.はじめに

書物とは、さまざまな知識や人間の思いを、時空を超えて伝えてくれるタイムカプセルです。それなしに文明の高度な発達はあり得ず、人類史上、最も重要な発明品、道具と言えるでしょう。

- 日本には先人たちの配慮によって、膨大な古典籍（*）が残されています。ところが残念なことに、それらを顧みる人たち、つまり死者の声に直接耳を傾けようとする人たちは、日に日に少なくなりつつあります。
- 多くの人々に古典籍の世界に直接接触して欲しい、そのための道具や作法をお伝えしようというのが、このパスファインダーの目的です。

*ここでいう「古典籍」とは、主に明治維新以前に日本で作られた版本や写本を指しますが、多くの文庫に伝存する唐本（中国で作られ日本に舶載された漢籍）や韓本（同じく朝鮮半島で作られた書籍）、また明治以降に作られた和装本をも含んでいます。

2.書物を知る

まず、タイトルをもとに和漢古書目録を使ってその本について調べてみましょう。様々な和漢古書の目録から手元にある本について知ることができます。

国内の様々な和漢古書を探す

全国の図書館の和漢古書を記録した総合目録を検索することによって、一度に膨大な和漢古書を検索できます。

総合目録で探す

オンラインで利用できる国内の総合目録には例えば以下のようなものがあります。

タイトル 日本古典籍総合目録データベース

著者名 国文学研究資料館

リンク先 URL http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/KTGDefault.exe?DEF_XSL=default&GRP_ID=G0001401&DB_ID=G0001401KTG&IS_TYPE=meta&IS_STYLE=default



インターネット・DB

○日本の古典籍の戸籍簿のような、最も基本的なDB。全国の図書館や文庫（海外の主要図書館を含む）、さらに主要な社寺や個人の所蔵する、明治維新以前に成った和書について、基本書誌と所在情報を検索できる。

○日本の人文学研究の精度を飛躍的に向上させた基本ツールである『国書総目録』（岩波書店、1963-1976、補訂版は1989-1991）と、その補遺版『古典籍総合目録』（岩波書店、1990）の継承・発展版。ウェブ版の検索の便利さが画期的で、この二つの書籍版

ひとつ は歴史的役割を終えた（使用すべきでない）。

と紹介 ○明らかに日本で出来た古典籍でありながら、このDBでヒットしない場合は、和刻本漢籍であるか、明治以降の成立であることが多い。もっとも日本の古典籍の世界は豊かで、これに漏れた書籍が出現することも少なくない。殊に一点ものの文書的書籍の場合は、しばしばある。

○偉大なDBであるが、基本的に各文庫図書館の目録を統合したもののなので、誤記を含んでいる。いかなるツールもその記述を盲信してはいけない。目の前の書籍に即して、自分の目で確認すること。

タイトル 日本古典資料調査データベース

著者名 国文学研究資料館

リンク先 URL http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/SCHDefault.exe?DB_ID=G0000401SCH&GRP_ID=G0000401&DEF_XSL=default&IS_TYPE=csv&IS_STYLE=default



インターネット・DB

○国文学研究資料館が30年間にわたって調査蓄積してきた、国内外の図書館・文庫等に所蔵される古典籍の「文献資料調査カード」から、主要な書誌情報を抽出したデータベース。

ひとつ ○調査カード画像も参照可能で、約144,000件を収録している。こちらが実際の書誌調査においては、版次などを比較するための重要な参考資料となる。

紹介 ○そのように書誌調査の仕事にとって、たいへん助けになる重要なDBであるのに、調査カード画像のリンクの多くが切れてしまっている。体感的には半ば以上が切れているようだ。いったいどういう事情なのだろう。残念でならないし、また隔靴搔痒の感をかきたてられる。何度も改善を申し入れているが、いまのところその甲斐はない。これもいったいどういう事情なのだろう。（この条、2011年8月記之）

タイトル マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録

著者名 国文学研究資料館



インター
ネット・DB

リンク先 [http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/KTMDefault.exe?
URL DEF_XSL=default&GRP_ID=G0003917&DB_ID=G0003917KTM&IS_TYPE=meta&IS_STYLE=default](http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/KTMDefault.exe?DEF_XSL=default&GRP_ID=G0003917&DB_ID=G0003917KTM&IS_TYPE=meta&IS_STYLE=default)

ひとこと紹介
国文学研究資料館が撮影・収集した国内外の大学・図書館・文庫等所蔵の写本・版本のマイクロ資料と、国文学研究資料館が所蔵する原本（写本・版本）の目録データベース。
一部のレコードには、古典資料調査データ及び国文学研究資料館蔵の和古書のデジタル画像へのリンクがある。
マイクロ／デジタル資料約215,000件、和古書約15,000件を収録している。

タイトル 和刻本漢籍総合データベース



インター
ネット・DB

著者名 国文学研究資料館

リンク先 [http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub
URL /WKNDefault.exe?DB_ID=G0004020WKN&GRP_ID=G0004020&DEF_XSL=default&IS_TYPE=csv&IS_STYLE=default](http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/WKNDefault.exe?DB_ID=G0004020WKN&GRP_ID=G0004020&DEF_XSL=default&IS_TYPE=csv&IS_STYLE=default)

ひとこと紹介
国文学研究資料館が収集したマイクロ資料中、和刻本の序跋刊記情報と所蔵和刻本の画像等を提供するデータベース。2011年8月現在では、序跋刊記情報のみを収録している。

タイトル 全国漢籍データベース

著者名 全国漢籍データベース協議会



インター
ネット・DB

リンク先 <http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki?detail>
URL

ひとこと紹介
日本の主要な公共図書館・大学図書館に所蔵される中国古典籍に関する書誌・所蔵情報のデータベース。
一部巻頭の画像も収録している。2011年3月現在で漢籍目録は69機関、814,203レコードを収録、巻頭画像は3機関、14,122枚を収録。

3. 著者を知る

手元にある本の著者がどんな人物であるか、それを知らずしてその本がどんな書物か知ることはできません。その本がどんな人物によって書かれたものか調べてみましょう。人名辞典や前項で紹介した目録を使って調べることによって、本や著者を知り、書物と書物をつなげていくことができます。

著者を調べるための図書・データベース

著者の検索ができる図書・データベースには以下のようなものがあります。

タイトル 国書人名辞典



著者名 市古貞次 〔ほか〕 編纂, 市古 貞次 (1911-2004)

ひとこと紹介 ○書誌調査にとって最も重要な人名辞典。『国書総目録』全8巻に収められた編著者のうち、伝記の判明する約3万名を収録する。生没・名号・家系・経歴について、簡にして要を得た記述があり、著作と主要な参考文献を掲載する。たいへんな労作で資料価値が高い。

○本書の白眉は、最終巻にある名や別号の索引。昔の人は名前が複数あることが常態なので、この網羅的な索引はたいへん役に立つ。

○ただ注意すべきは、本書は明治維新以前に成った編著のある著作者しか収めていないということ。著述のない人は有名人でも載っていない。

○願わくは、刊行後10年以上を経ているので、補訂版が欲しい。もちろんウェブ版が出来ればなお有り難い。こういう過去を生きた人たちの事績をきちんと顕彰するツールは、文化国家には必ずなくてはならない。

タイトル 地下家伝・芳賀人名辞典データベース

著者名 国文学研究資料館

リンク先URL http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/G0035938ZigeHaga



インターネット・DB

ひとこと紹介 ○日本の古典研究に関わる人物情報のデータベース。現在、芳賀矢一編『日本人名辞典』(1914)と、三上景文編、正宗敦夫校訂『地下家伝』(日本古典全集刊行会、1937.9-1938.8)6冊を収めている。歴史人物画像データベースにもリンクあり。

○地下官人(朝廷に使える下級官人)は文化活動に参加することが多く、つまり書籍の世界と縁が深いため、その家譜集である『地下家伝』は資料価値が高い。書籍版の『地下家伝』は検索が不便なので、威力を発揮する。

○いっぽう、『日本人名辞典』はツールとして中途半端な感じ。『日本人名辞典』+『地下家伝』だけというのも、取合せがいかにも唐突な感じ。願わくは、近世期に成った人名録類をどんどん追加していただきたいものだ。

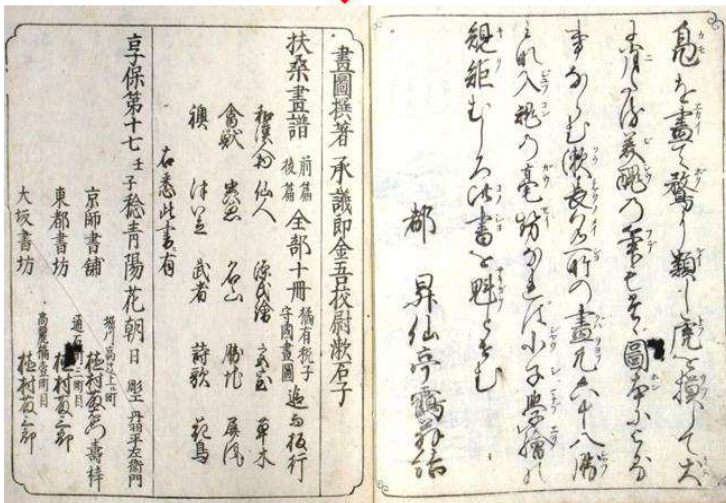
例) 『和朝名勝画図』を調査する

『和朝名勝画図』は名所の風景を描いた享保17年(1732)年刊の絵本。

著者の「漱石子」は『国書人名辞典』に、藤井氏、京の人、とあるのみで、伝不詳。



ヒントは奥書の作者肩書「承議郎金吾校尉」。これは正六位下・右衛門尉の唐名（中国風の呼称）。



そこで「地下家伝・芳賀人名辞典データベース」を姓や肩書で検索する。

すると、いたいた！藤井重好という人(レコードID:00100297)。時に正六位下・大舍人大允兼右衛門少尉でぴったり一致する。

ここでもう少し、調査をしてみる。著者が判明したところで、次に「藤井重好」で「日本古典籍総合目録」を検索する。

すると、享保20年刊『築山庭造伝』の(著作ID:375075)の画工であることがわかる。

実際の資料を見ると見返に同じように「承議郎金吾校尉藤井宿祢重好画図」とあり、画風も一致する。



このようにひと手間調査を加えることで著者の新事実が判明したり、別の著作が見つかったりして比較研究の材料になる。

4. 書物を比較する・つなげる

検索対象資料の分野、内容などを検索キーにして個別の図書館・文庫目録も検索してみましょ。また、全文画像も掲載されたデータベースを利用すれば、テキストや筆蹟、画風の比較もできます。

国内諸機関の和漢古書目録

オンラインで利用できる国内の諸機関の目録や和漢古書のデジタル画像データベースには例えば以下のようなものがあります。

もう「ちょっとだけ」調査する

和漢古書のデジタル画像や記述的書誌データベースを利用することによって本によるテキストの差異や書物と書物の著者や来歴などのつながりを見出すことができます。

書物は基本的に複製されるものですが、モノによって差異があります。その差異に書物を解く重要なカギがあり、その本による差異を比較し、書物を知って先人の志を学び、そして調査を自分の研究に生かしてください。



タイトル 古典籍資料（貴重書等）

著者名 国立国会図書館

リンク先URL <http://dl.ndl.go.jp/#classic>

インターネット・DB

ひとこと紹介 国立国会図書館所蔵古典籍資料（約30万冊）のうち、貴重書等から特色ある資料を取り上げ、和古書・漢籍あわせて約1,000タイトルの全文画像データを収録している。一部の資料には、解題や翻刻も付与。
コンテンツ：書誌、全文画像、解題、翻刻



タイトル 狩野文庫データベース

著者名 東北大学附属図書館

リンク先 http://dbr.library.tohoku.ac.jp/infolib/meta_pub/Go000002kano
URL

ひとつこと 東北帝国大学に譲渡された約108,000冊の狩野亨吉の旧蔵書からなる狩野文庫の和書、洋書、絵葉書の書誌データ（漢籍や新書などは除く）を収録している。哲学、美術、兵学など広範囲の書誌を収録しており、和書約1,180点と絵葉書約17,000点の資料は画像も参照できる。
紹介 コンテンツ：書誌、全文画像



インターネット・DB

タイトル 電子版霞亭文庫

著者名 東京大学附属図書館情報基盤センター

リンク先 http://kateibunko.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/katei/index_srch.html
URL

ひとつこと 東京大学附属図書館所蔵の霞亭文庫を全文画像データ化したもの。霞亭文庫は小説家渡辺霞亭が収集した江戸期の浮世草子、芝居本、洒落本、御伽草子、金平本、落語本、黄表紙など小説類総数1,159点からなる。
紹介 コンテンツ：書誌、全文画像



インターネット・DB

タイトル 東洋文化研究所所蔵漢籍目録データベース

著者名 東京大学東洋文化研究所

リンク先 <http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html>
URL

ひとつこと 東京大学東洋文化研究所所蔵の漢籍の書誌データと画像データを収録している。一部については巻首や全文の画像データもあり。
紹介 コンテンツ：書誌、全文・巻首画像



インターネット・DB

タイトル 古典籍総合データベース

著者名 早稲田大学図書館

リンク先 <http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/>
URL

ひとつこと 早稲田大学図書館が所蔵する約30万点のうちの一部の古典籍の書誌・画像データ。随時更新。
紹介 コンテンツ：記述的書誌、全文画像



インターネット・DB

タイトル 西尾市岩瀬文庫古典籍書誌データベース

著者名 西尾市岩瀬文庫

リンク先 http://www.i-repository.net/infolib/meta_pub/CsvDefault.exe?DEF_XSL=default&GRP_ID=Go000048&DB_ID=Go000048kotenseki&IS_TYPE=csv&IS_STYLE=default
URL

西尾市岩瀬文庫が所蔵する古典籍の書誌データをその本の来歴や内容も横断的に検索できるデータベース。近世以前の和本について歴史、文学、本草、宗教関係を中心に幅広く検索できる。

ひとこと紹介 岩瀬文庫は明治41年(1908)に西尾市の実業家であった岩瀬弥助が社会貢献を志して設立した、市民に公開された私立図書館であり、和装本を中心として特定の分野に偏りなく蒐集されている。

コンテンツ：記述的書誌

タイトル 京都大学電子図書館貴重資料画像

著者名 京都大学附属図書館

リンク先URL <http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/index.html>



インターネット・DB

ひとこと紹介 京都大学附属図書館や学部図書室が所蔵する貴重書を対象に作成した書誌と高精細画像(一部)のデータベース。平松文庫(西洞院時慶を遠祖とする平松家の日記・記録文書・写本など1,137点)、谷村文庫(実業家、故谷村一太郎氏の集書のうち3,759点。木活字本・五山版、連歌資料をはじめ広範囲に及ぶ)、清家文庫(慶長・元和木活字版の和装本、清原家儒学、国史、国文の和書など779点)、中院文庫(中院家に伝わる数々の記録文書・注釈書・写本など510点)、富士川文庫(医学博士、文学博士の故富士川游氏の旧蔵書。明治以前の和漢医書と江戸中期以降主として幕末期の西洋医学書の翻訳書など4,700点)などを収録している。

コンテンツ：書誌、全文画像

タイトル 森文庫和古書データベース

著者名 大阪市立大学学術情報総合センター

リンク先URL http://dlisv03.media.osaka-cu.ac.jp/infolib/meta_pub/CsvDefault.exe?DEF_XSL=default&GRP_ID=G9200001&DB_ID=G9200001CROSS&IS_TYPE=csv&IS_STYLE=default



インターネット・DB

ひとこと紹介 森文庫は民間蔵書家である故森繁夫氏の小竹園旧蔵書の大部分からなり、和本を中核とした伝記、国文、地誌、歴史関係のコレクションである。特に近世以降の文人伝記関係、和歌などの資料に特徴がある。

「森文庫近畿関係カラー画像データベース」はそのうちの近畿関係の宗教、歴史、思想史関係の75冊の全文画像データベース、「森文庫和古書画像データベース」は和古書約2260冊の全文画像データベース。

コンテンツ：書誌、全文画像

5. 書誌調査に役立つツール

書誌調査では目録や人名辞典以外にも以下のようなツールを利用できます。知らない言葉や地名、元号などを見つけたら調査に役立ててください。

言葉・地名を調べる

資料やデータベースを調べている際に知らない単語・地名がでてきたら以下のツールで調べることができます。



インターネット・DB

タイトル JapanKnowledge+

著者名 ネットアドバンス

リンク先 URL <http://www.jkn21.com/top/corpdisplay>

ひとこと紹介

総項目数50万、用例数100万を収録した日本最大の国語辞典『日本国語大辞典第二版』（全13巻）の完全デジタル版を収録。

そのほか、新編日本古典籍文学全集の全文を読んだり、検索することもできる。

*利用後には必ずログアウトをしてください。



図書(の章節)

タイトル 角川日本地名大辞典

著者名 「角川日本地名大辞典」編纂委員会編纂

ひとこと紹介 古代から現代までの地名を都道府県別に収録し、地名の由来と沿革、その地の歴史を掲載した地名辞典。



図書(の章節)

タイトル 日本歴史地名大系

ひとこと紹介 古代中世の郡郷、近世の村、宿場や城下、現在の市町村名から、山川や荘園、考古遺跡、城館跡、寺社など土地土地の歴史を語る地名を収録し、史料や民俗をふまえて解説した歴史地名辞典。

年号を調べる

西暦・和暦変換や干支の変換に以下のツールが利用できます。



インターネット・DB

タイトル 換暦

著者名 (株)まえちゃんねっと

リンク先 URL <http://maechan.net/kanreki/>

ひとこと紹介

○和暦と西暦（グレゴリオ暦・ユリウス暦）との相互変換を、瞬時に行ってくれる便利なツール。

○そのみならず、年の干支や日の干支まで表示してくれる。古書古文書の世界では干支が多用されるので、時に威力を発揮する。

キーワード

書誌調査
和古書
和漢古典籍
漢籍